

町政をただす

問 世界自然遺産登録30周年 関係市町村の協力・取組は？

答 県が主導し、白神山地周辺自治体が一丸となって取組を進める



こん 今

かつよし 勝吉 議員

世界自然遺産 白神山地について

問 今議員

① 本年12月に世界自然遺産登録30周年を迎える白神山地の自然、歴史や文化を共有する市町村が、どのように協力し合い全国に発信し、取り組んで行くのか。

② 「十二湖」の山開き以降、登録30周年をどのように盛り上げて行くのか。

また、登録30周年に呼応すると思われる「十二湖振興戦略プラン」の状況は。

答 町長

① 7月17日に弘前市で開催される世界自然遺産登録30周年オープニングセレモニーを皮切りに、首都圏のマスメディア等を活用した集中的なPR、首都圏の駅での観光キャラバンや産直市と連携した観光プロモーション、アウトドア関連会社とタイアップした旅行商品の企画などの事業が計画

されている。県が主導し、白神山地周辺自治体が一丸となって取組を進める予定となっている。

② 5年ぶりとなる花火大会を8月12日に計画しているほか、写真・動画コンテストの実施、白神山地の水「青池ラベル」制作等の事業で、遺産登録記念の機運を盛り上げることになっている。

また、十二湖振興戦略プランについては、今年度においては、王池湖畔の旧店舗解体工事とその跡地の環境整備工事を年度内の事業完了に向けて進める。



風力発電について

問 今議員

深浦町の風力発電（合同会社グリーンパワー深浦）は現在、出力7万9800キロワットの風力発電施設（大型風車19基）と送電線（地中集電ケーブル）の工事中で、2024年2月に商業運転開始予定と聞いている。そこで働く総人数（雇用創出）及び経済効果はどのくらいなのか。（将来的な固定資産の見込み）
また（株）グリーンパワーインベストメントは現在、深浦町北部（広戸地区から田野沢地区）約3700ヘクタールで大型風車31基、45基程度で最大出力約19万キロワットの風力発電を計画しているが、その総合経済効果の試算は。

答 町長

合同会社グリーンパワー深浦に確認したところ、延べ約12万人、最近では1日600人から700人が従事してい

町政をたどす



▲大型風車建設現場の様子

る。また、それ以前からの準備工事等も実施しているため、これらに携わった方々もほかに含まれるものと思われる。

総工費は、おおよそ420億円ということだが、経済効果については、具体的な数値は不明。ただし、県外企業の方々が、町内の宿泊施設や借家等を利用していただくことから、これらに起因する経費等は、町内において消費されているものと思われる。

また、商業運転開始後も、メンテナンススタッフの雇用やその他、除雪や道路維持管理等から経済効果が見込まれると思われる。

なんでも課の開設について

将来的な固定資産税の額は、20年間で15億円から16億円程度と試算している。

更に、町の農林漁業及び地域の活性化に寄与するための協力金として、年間4千万円、20年間で計8億円が町に寄付される予定となっている。

問 今議員

近年、働き盛りの町民が減り、高齢者の人口が半数を超える状況となっており、地域コミュニティの維持が危ぶまれている。高齢者が住み慣れた地域で安全、安心して暮らし続けるためには様々な課題があるものと認識している。そこで提案だが、役場内に身近な諸問題を解決してくれる「なんでも課（仮称）」の開設が必要と思うが、町長の見解は。

答 町長

全国の自治体の中には、困りごとの相談窓口としての役割を担い、八千の乗除や道路上の動物の死骸の処理など、すぐにやれるものはすぐに対応し、専門的な事案などについては担当部署や専門機関につなぐなどの業務を行っている「すべやる課」などといった部署が全国で14ほどの自治体が設置している。

本町では、町民課の町民生活係が正にこうした業務を行っており、小規模な自治体は、役場そのものが「なんでも課」であり、その窓口として町民課や両支所があるので、あえて新たな部署を設置しなくても、現在の組織で十分にその役割を担っているものと考えることから、専門部署の開設といった考えはない。



ゆとり温泉閉鎖後の救済について

問 今議員

ゆとり温泉閉鎖後、高齢者がコミュニケーションを図れず、自宅に閉じこもり認知症等の健康不安が生じていると聴く。一般常識的には、施設閉鎖に際して何らかの対策があるものと私は考えるが、高齢者の健康被害対策解消の対応は。

答 町長

ゆとり温泉閉鎖後、自宅での入浴が困難で、介護サービスの入浴施設を利用したいという相談が6件ほどあり、それぞれの介護サービスの入浴施設を利用いただいている。

高齢者のコミュニケーションの場としては、老人クラブ活動や生きがい活動、げんきサロン、認知症カフェ、脳の健康教室等を開催しているほか、グラウンドゴルフ、ゲートボール、公民館での趣味活動等、生涯学習の場を確保している。

新たな温浴施設の建設については、様々な理由により現状では困難な状況にあるので、他の方法で高齢者のコミュニケーションの場を確保し、高齢者の健康に資する事業の周知に努めていく。

